

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2013年4月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第543号

財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、4月1日から、公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーとして再出発することになった。これは、法人法の改正により、2013年11月30日までに公益認定を受けて公益法人となるか、または一般法人として認可を受けるかしなければ解散したとみなされることになったためである。公益認定を受けるためには、公益目的事業を行うことを主たる目的としているか否か、公益事業を行うのに必要な経理的基礎および技術的能力を有するか否かなどが、厳しく審査され、その審査を通らなければならぬ。その代わりに公益法人として認定されれば、法人税や寄附者の所得税などに優遇措置を受けることができる。

当財団では、シュペネマン・クラウス理事長を始め多くの事務局スタッフが過去3年間この認定を受けるために膨大な書類を準備し、申請にこぎつけ、監督官庁の指導を受けて、ようやく公益法人として認定されるに至った。

今回この申請を行うに当たってはまず、日本クリス

チャン・アカデミーはこのような煩雑な手続きを経てもなお、公益法人としての認定を受ける必要があるかどうかを問われた。クリスチャン・アカデミーの運動は、本来この運動の趣旨に賛同する個人の人々の捧げものだけによって成り立っている。法人の形を取

している様々な課題と向かい合おうとするからである。それにして認可の易しい一般法人ではなく、敢えて公益法人としての形を取ろうとするのはなぜか。それは、この運動が特定の分野の人だけでなく、すべての市民に開かれており、一般市民の中に根をお

我々は何を目指すか？

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正



ろし、市民によって支えられ、市民に仕えるものであることを願うからである。

それでは、どのような形で市民に仕えるのか。すべての命が尊ばれ、互いに生き生きと共生し、思想と信教の自由が保障され、正義と平和が充満する社会の実現に仕えることを通してである。これらの中で、他の組織が引き受けている法的制約を同じように引き受けて、日本の市民が直面

目覚めによってだけ実現される。その絶えざる目覚めはいかにして可能なのか。現実の困難の中でくずおれそうになる時、私達を励まし、指針を与えるのは、キリストの精神である。それは、自己絶対化を避けしめ、究極的なものに目をとめさせ、希望を与え、立場の相違を越えて繋がり合い、和解し、真理を求めらる点で一致することへと促す。

当財団は今、改めて立つべき場所を確かめ、目指すべき方向を見定め、新しい歩みを、この財団を応援して下さるすべての人達と共に始めたい。

なおこれを機会に、これまで長年財団を率いてこられたシュペネマン・クラウス氏が理事長を退かれ、10名の理事、2名の監事、11名の評議員もその役を退かれた。代わって、別掲の5名の理事、2名の監事、6名の評議員が財団の運営をお預かりすることになった。長年、それぞれの役を担って下さった方々のご苦勞に感謝すると共に、今後とも変わらずこの財団の働きのために力を貸して下さいをお願ひしたい。

(中部大学教授、京都大学名誉教授)

本の社会が直面し、混迷の中にある問題を広い視野から根源的に掘り下げ、問題を克服する道を探る。これらのプログラムに、キリスト者のみならず、多くの市民が、費用の困難を覚えずに参加できるように参加費を低く抑える。そのために必要な経費は基本的に、この活動センターの趣旨と活動に賛同して下さる市民の寄付に期待する。

度は公益財団法人への移行となるが、その趣旨に添うように下記の方針ならびに目標数値を掲げ、積極的な事業運営を行う。

1. 運営基本方針

1) 公益財団法人移行に伴う対応

2013 年 4 月に公益財団法人への移行に伴い、つぎの対応をはかる。

①公益目的事業の拡大

アカデミープログラム、教育機関・学会・研究会、諸団体が行う研修、教育、文化活動の支援の拡大に取り組む。

②収益事業の拡大

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出の拡大を推進する。

2) 財団負担金による貢献

2012 年に設けた財団負担金は、本年度さらに増額し、公益事業への一層の貢献を行う。

3) 有形財産の活用

前年度開発した能舞台「豊饗殿」での能観賞会プログラムに続き、茶室「清心庵」、日本庭園、茅葺門などの有形財産を活性化するための新たなプログラムを生み出すなどして、「関西セミナーハウス・修学院きらら山荘」の持つ潜在力を引き出し、さらなる有効利用、ブランディングを行う。

4) 第 1 期大規模改修の追加工事

積み残しとなっている本館 1 階トイレ、ロビーのブラインドの改修を行う。そのために収支を改善し、キャッシュフローを生み出す。

5) コア利用者を中心としたリピーターの確保と拡大
長年のコア利用者（アカデミープログラム、教育機関・学会・研究会、諸団体など）のリピーター率向上を目指し、宿泊利用者数の安定化を図る。

6) 宿泊予約システムの本格的な運用

2012 年度下期に導入した宿泊予約システムの本格的運用を行い、データ化による顧客管理、効率的な運営を行う。

7) WEB 関係の充実

引き続き、ホームページ、メールマガジン、ブログなどを充実して情報発信を強化する。またフェイスブックとの連動性を高め、平日利用の一般利用者の増大に取り組む。

8) 職場研修の充実

異動や退職、新規採用等による新しい人事体制の確立を目指し、定期的な職場研修を開催するとともに OJT によるスキルの向上を図る。

9) 新料金体系と収支バランス

昨年度の改修に伴い、南棟と北棟の料金バランスを見直し、新年度料金体系を設定する。

2. 主な数値目標

- 1) 収入計画 (P&L ベース) : 1 億 1,618 万円
- 2) 営業収支計画 (P&L ベース) : 収支ゼロ
- 3) 設備投資額 : 1,300 万円
- 4) 宿泊者目標 : 9,200 名
- 5) 年度期首要員 : 27 名
- 6) 職員スタッフ内訳 : 5 名、嘱託 5 名、パートタイマー 17 名

シリーズ名	回数	プログラム	予定
修学院フォーラム 社会	第1回	エネルギーを考える チェル/ブイリと福島から(仮) 山崎知行(和歌山県海南市医師)	11月30日 (土)
	第2回	原子力発電の根本的問題と我々の選択 社会科学の視点から(仮) 姜尚中(聖学院大学全学教授) 聖書の視点から(仮) 上山修平(日本キリスト教会横浜海岸教会 牧師)	2014年1月 12日(日) ~13日 (月、祝)
修学院フォーラム 福祉	第1回	重荷を負う人と共に 一人一人みんな違っていい: べてるの人たちから学んだ生きる力、暮らし方 向谷地生良(北海道医療大学看護福祉学部 教授、社会福祉法人浦河べてるの家理事)	9月7日 (土)
	第2回	前例がなければつくればいい 青野浩美(声楽家)	2014年2月 22日(土)
修学院フォーラム いのち	第1回	生、老、病、死を考える 再生医療の生命倫理 iPS細胞を中心として 位田隆一(同志社大学大学院グローバル・ス タディーズ研究科教授)	5月11日 (土)
	第2回	私たちに死ぬ権利は必要なのか 川口有美子(日本ALS協会理事)	7月13日 (土)
	第3回	死にゆく人格権 一自宅を家族に看取られる死が理想なの か? 福島 旭(関西学院中学部宗教主事)	10月26日 (土)
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー(協力プログラム)	6月23日 (日)
	第2回	世界の中のパレスチナとイスラエルの人々 ~そこで生きる人々に光をあてて~ 古居みずえ(アジアプレス)	6月29日 (土)~30 日(日)
	第3回	沖縄スタディツアー	8月予定 (3日4日)
	第4回	日本の中のアジア、アジアの中の日本~ウ トロを「歩く・見る・聞く」 中村尚司(龍谷大学人間・科学・宗教総合研 究センター)	9月14日 (土)~15 日(日)
	第5回	グローバルゼーションの中で求められる経 済のしくみ ~子どもたちと考える未来 浜矩子(同志社大学大学院教授)	11月16日 (土)~17 日(日)
	第6回	気づきと対話のファシリテーション~アジ アの共存と平和 池住義憲(立教大学大学院教授)	12月14日 (土)~15 日(日)
研究会	第1回	茶室プログラム お茶のこころと宗教のこ ころ お茶のこころとキリスト教信仰のこころ 西川 和江(単立岸和田栄光教会伝道師)	5月20日
	第2回	未定	未定
展示、演奏会		もみじまつり	11月23日 (土)

IV 関西セミナーハウス事業計画

(以上)

2012 年度は、3 月に長年の課題であった大規模改修(第 1 期)行い、一歩前進の時であった。2013 年

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2013年度事業計画

I. 事業計画基本方針

2013年4月より公益財団法人として新たな活動を展開する。公益財団法人としては二つの大きな課題に直面している。その一つは、公益性のある事業を一層活発に展開することであり、もう一つは、当財団の財政状況にかんがみて、財団運営体制について長期的かつ安定的展開策を実行することである。2013年度は、以下の基本方針を掲げ、財団事業を積極的に推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に応じて、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

① 現有のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。

② アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。

③ 東・西活動センター合同プログラムを継続的に実施する。

(2) 関西セミナーハウス

① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設、会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する。

② 長年の課題であった老朽化等に対応する第1期改修工事は2012年春に完成したが、その有効的活用によって、利用率の向上、収支の改善をはかるとともに東・西活動センターでの公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容及び各年度事業計画・予算や、事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的に情報発信を継続する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の出貸を行い、その収益の一部を公益活動に資する。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所スペースの一部を貸与し、その収益の一部を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を開発し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念を周知し、アカデミー運動を支えようとす

る賛助会員、寄附金の拡充を図る。

公益法人への個人・法人からの寄附金について、税額控除制度が導入されていることをより広範に周知し、協賛を依頼する。

II 関東活動センター事業計画

異なる立場の者の出会いと対話を促進する、日本クリスチャン・アカデミーの理念に常に立ち返りつつ、現代社会の問題に対する洞察を深め、行動へと結びつけるプログラムを行う。

広報のネットワークを強化する。プログラムの周知を拡大し、また賛助会員、寄付者の新規、継続加入を推進し、関東活動センターの財政基盤を固める。

総務、プログラム諸準備とともに、事務作業の縮小、分担を図り、運営委員、スタッフとも、負担の少ない業務の流れを整える。

シリーズ名	回数	プログラム	予定
関東フォーラム 今日的課題	第1回	いじめの源泉と対応 土井正義(予定・筑波大学教授)	6月
	第2回	日本国憲法と戦後日本史 池住義憲(立教大学教授)	9月
	第3回	アジアで働く若者たちに聞く パキスタンで 石井理恵(世界食糧計画職員)	未定
	第4回	アジアで働く若者たちに聞く インド・ケラ ラ州で 小倉沙央理(予定・国際援助団体職員)	未定
関東フォーラム 宗教対話	第1回	① 今、哀しみの最前線で 在宅療養支援の現場から 川越厚(クリニック川越院長)	7月20日 (土)
	第2回	家族外来の試み 癌患者の家族・遺族に寄り 添って 大西秀樹(さいたま医科大学教授)	11月
	第3回	入院患者と共に 臨床牧会の試み 大柴謙治(福音ルーテルむさしの教会牧師、 賛育会病院チャレン)	2月
	第4回	② キリスト教の周辺の人たち 「日本キリスト教史の周辺を訪ねて」 福澤諭吉とキリスト教 鈴木健次(元大正大学教員)	5月 6月21日 (金)
聖書を教材として 用いる講座 (聖書を読む会)	3回	はじまりの聖書「旧約聖書の間像」 吉岡康子(青山学院短期大学宗教主任、日本 基督教団吉祥寺教会牧師)	4月15日 (月)~
	8回	『虹は私たちの間に』を読む 山口里子(日本フェミニスト神学・宣教セン ター共同ディレクター)	4月8日 (月)~
研究会		保育者のための絵画 ワークショップ 金斗鉾(画家・イラストレーター) キリスト教保育連盟と共催	8月
神学生交流プロ グラム		(未定)	2014年3月
新年のつどい		小倉沙央理(国際援助団体職員)	2014年1月 18日(土)

III 関西セミナーハウス活動センター事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーの発足を機に、新たな思いで、キリスト教精神に基づきつつ、しかも広く社会に開かれた自由、平等、正義、平和の実現を目指すプログラムを実施する。具体的には、日

2013 年度収支予算書 (損益計算方式) 総括表

(2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	3,000	3,000	0	
受取会費	2,000,000	1,900,000	100,000	
参加者受取会費	2,689,050	2,692,000	△ 2,950	
事業収益	127,543,100	118,472,872	9,070,228	
受取寄付金	4,494,800	3,580,000	914,800	
雑収益	1,030,000	1,041,000	△ 11,000	
経常収益計	137,759,950	127,688,872	10,071,078	
(2) 経常費用				
事業費	138,783,612	130,841,142	7,942,470	
管理費	5,522,474	5,190,180	332,294	
経常費用計	144,306,086	136,031,322	8,274,764	
当期経常増減額	△ 6,546,136	△ 8,342,450	1,796,314	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外費用				
建物付属除却額	400,000	400,000	0	
経常外費用計	400,000	400,000	0	
当期経常外増減額	△ 400,000	△ 400,000	0	
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 6,946,136	△ 8,742,450	1,796,314	

評 議 員	監 事	役 員 代 表 理 事	二〇一三年度 公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
横野 朝彦 増田 琴 西原 廉太 中村 信博 土井 健司 柴橋 美穂 神崎 清一	神保 正男 棟方 信彦 中井 博雅 島田 恒	戒能 信生 小久保 正	

関西セミナーハウス活動センター

●2012年度「開発教育セミナー」第6回
「尖閣問題から沖縄を考える」
「基地のある沖縄から平和を展望する拠点へ」

関西学院大学法学部教授 豊下 楯彦さん
2012年12月8日(土) ～9日(日)



第1セッションは、豊下さんの講義へのウォーミングアップとして、尖閣諸島の場所と大きさを考える活動で開始。石原都知事の「3島購入」方針後、日本政府が購入を決定したが、尖閣諸島はその他久場島・沖ノ北岩・沖ノ南岩などからなる島々の総称で、久場島など2島は射爆撃の訓練場として米軍の管理下にあり、現在も日本人は立入禁止である。アメリカは中国との摩擦を避けて「中立の立



場」をとり、日本政府もこの2島については不問の態度である。私たちは基地問題だけでなく、領土問題でも沖縄に火種を押しつけている。第2セッションでは、講義を中心に、沖縄を軍事戦略の要から平和を構築する拠点としての位置づけへ転換させるための日本外交の在り方へと話を進めた。沖縄は太平洋戦争で大きな犠牲をはらった点で、東アジアの国々と経験が

重なる。この共通する歴史的風土を土台に、これからの日本の望ましい外交の在り方として展望されるのは、これらの国々との緊張関係を緩和し、信頼を醸成する外交に転換するというものだ。

第3セッションは、写真やDVDを使って沖縄の歴史と現状を学び、参加者の気づきをキューブの6面に表現した。オスブレイ配備に抗う高江の住民の姿に、平和構築に第三者の立場などないと私自身の生き方を問われる機会となった。

●修学院フォーラム「高齢を生きる―認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」第3回
「高齢を生きる―認知症・医療的介入(胃ろうなど)・尊厳死を見据えて」
―制度と現場のはざままで―

豊中愛和会理事長 根岸 宏邦さん
2012年12月15日(土)



聖書やカレン事件、ナンシー・クルーザン事件といった基本的な事例にふれ、臨床経験をとおして根岸さんは問題の難しさを説明してくださった。できるだけの手当て

をするという医療の常識が、最近が変わってきた。たとえば延命処置。結局患者が亡くなった場合、昔は懸命であればあるほど「よく頑張った」と評価されたが、最近は無駄な過剰医療をしたのではないかと査定対象になる。高齢者にかかる医療費が莫大となり、胃ろう設置もその増大に一役買っている。そこでなんらかの制限を設ける必要があるとの雰囲気が増している。旧来の価値観が揺ら

いでいる。ただその一方で、障がい児の場合は、生まれたときから重篤な障害をもっていても治療に疑問がもたれることはなく、できるかぎりの医療行為をするのが常識である。障がい児と高齢者のどこがちがうのかという意見もあり。具体例を提示しつつ、わかりやすく話してくださいました。

話し合いの時間では線引きはできない、生きていて欲しいという思いが負担の場合もある、本当に寄り添うとはなにか等などの意見が出た。最後、医療の場でマニュアルが求められるが、マニュアルがあれば考えなくてよいわけではないという根岸さんの言葉は啓発的であった。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む講座**

「はじまりの聖書～旧約聖書の人間模様」

講師：吉岡康子さん（青山学院短期大学宗教主任）

日時：2013年2月～6月の月曜日（19:00～20:30）・原則月1回 全5回

③ 4月15日 ④ 5月20日 ⑤ 6月17日 *第1・2回は終了

会場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円／学生500円

共催：早稲田奉仕園

「聖書によれば同性愛は罪？－わたらしい性と生のために」

東 西 南 北

◎**関西セミナーハウス**

坂田 真矢、職員（食堂）、中井 博義、嘱託（営繕）、2月28日付で退職しました。

野原 真一、嘱託（食堂）、2月24日付で着任しました。

◎**財団本部**

嶋井 純子、嘱託、3月31日付で退職しました。

黒岩 裕二、事務局長、4月1日付で就任しました。

小林 裕一、嘱託 4月1日付で着任しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
 代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館1F
 TEL 03-3207-6198
 FAX 03-3207-2478
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター
 TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

講師：山口里子さん（日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター）

日時：2013年4月～12月の第2月曜日（18:30～20:00）・原則月1回 全8回

① 4月8日 ② 5月13日 ③ 6月10日 ④ 7月8日 ⑤ 9月9日 ⑥ 10月7日 ⑦ 11月11日 ⑧ 12月9日

会場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円／学生500円 全8回 8,000円／学生3,500円

共催：早稲田奉仕園

■**宗教対話プログラム**

シリーズ「今、悲しみの最前線で」
 「在宅ホスピスの現場から見た医の原点」

講師：川越厚さん（三育会病院院長、在宅ケア支援グループ・パリアン代表）

日時：2013年7月20日（土）14:00～16:30

会場：日本キリスト教会館
 参加費：1,000円／学生500円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2013年度修学院フォーラム**

「いのち」一生、老、病、死を考える
 第1回「再生医療の生命倫理—iPS細胞を中心として」

講師：位田隆一さん（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

日時：2013年5月11日（土）13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
 参加費：1,000円／学生500円

■**お茶のこころと宗教のこころ**

2013年度第1回「お茶のこころとキリスト教信仰のこころ」

講師：西川和江さん（単立岸和田栄光教会伝道師）

日時：2013年5月20日（月）13:30～16:30

会場：関西セミナーハウス
 参加費：2,000円（抹茶込）

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2013年2月1日～2013年2月28日
 （順不同・敬称略）

◆**関東活動センター**

賛助会費

上林順一郎 20,000

寄付金

日本基督教団 番町教会 10,000

クリスマス募金

加藤真規子 4,000

◆**第4回神学生交流プログラム募金**

日本基督教団 千代田教会 5,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

牛尾 宣夫 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

寄付金（クリスマス寄付金を含む）

原田 博充 3,000

日本基督教団 宇治教会 5,000

高橋 壮二 5,000

◆**第4回神学生交流プログラム募金**

小澤 英輔 10,000

椿 邦良 10,000

飯島 隆輔 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。



この度、財団に、元財団評議員で元関西運営委員の魚木アサ様より、平山郁夫画伯の作品「月光流砂らくだ行」（複製）をご寄贈いただきました。感謝をもってご報告いたします。

深いブルーが印象的です。関西セミナーハウスロビーに飾って来館の折には、どうぞご覧下さい。

絵画をご寄贈いただきました